

オンライン（ZOOM）による地域別懇談会報告

社会福祉法人鶴ヶ島市社会福祉協議会

【実施日・参加者】

令和3年10月4日 32名（新町小学校区・南小学校区）

令和3年10月6日 39名（鶴二小学校区・藤小学校区）

令和3年10月7日 48名（栄小学校区・杉下小学校区）

令和3年10月8日 40名（長久保小学校区・鶴一小学校区）

○合計 延べ参加者数 159名

○司会者向け事前説明会（4日間実施） 延べ参加者数 39名

【当日の流れ】

時間	内容	振り分け
14:00	開会（あいさつ）及び タイムスケジュール	全体
	データからみる鶴ヶ島	全体
	地域福祉計画・地域福祉活動計画について （第3次計画・各調査結果等）	全体
14:20	アイスブレイク	全体
	地域別懇談会の概要説明	全体
	グループワーク① 自己紹介（15分）	グループごと
14:50	グループ討議の説明	全体
	グループワーク②（35分程度）	グループごと
15:30	各グループの意見の共有	全体
	質疑応答	全体
	地域別懇談会の総評	全体
16:00	記念撮影・閉会	全体



← 第3次地域福祉計画・社会福祉協議会地域福祉活動計画各調査結果

http://www.tsurusha.or.jp/chiiki/img/3rd_chiiki_fukushikeikaku.pdf



地域別懇談会資料→

http://www.tsurusha.or.jp/chiiki/img/chiiki_kondan.pdf

【グループ討議】

テーマ

- ①コロナ禍で「地域のつながり」の必要性を感じたこと
- ②私たちそれぞれが地域でどんな役割を担えるのか

主な意見

- ・コロナ禍により、つながりが薄れ集まれる場所がなくなった。（市民センター、サロン、子ども食堂）引きこもってしまい、孤立孤独が広がっている。
- ・高齢者、子育て世代、外国人等、様々な人が影響を受けている。
- ・会話や人があうこと・あいさつの大切さが、コロナ禍により分かった。
- ・様々な地域活動で、担い手の不足、高齢化、参加者が偏ってしまう。
- ・これまでの活動ができなくなり、特に高齢者の自立度が落ちている。（フレイル、認知症の方が増加）介護保険に移行する方が多い。
- ・情報が入らない方も多い。情報格差により、不自由さが増している。
- ・鶴ヶ島市にはたくさんの活動をしている方がいることがわかり、心強く思った。
- ・自分が元気であること。散歩や会話、声かけをする。
- ・聞き役になる（子育て世代、孤立している方等）話を聞いてあげる。
- ・様々な人の受け皿になる。地域課題を把握し、解決策を地域で考えたい。
- ・地域のつなぎ役になりたい。次世代につなぎたい。企業等ともつなぐ。
- ・コロナ禍により、オンライン（パソコン、スマホ、LINE、zoom）の活用ができるようになり、つながれるようになった。新しいつながりが増えた。新しい趣味も増えた。

地域別懇談会後のお話…

- ・はじめて zoom を使ったが、様々な方とオンラインでつながることができ良かった。
今後、活用していきたい。
- ・グループ内で高齢者関係職員と障害者施設職員が知り合い、状況がわかったことで、高齢者サービスのみを利用していただいていた方が障害者サービスにつながる事例があった。
- ・グループ内の方の好きなことが分かったので、社協を通じてグッズ（自分が持っていた）をお渡しした。
- ・このつながりから、実際に対面であい、名刺交換ができた。
- ・社会福祉関係の方、市役所の方の顔が見え、相談しやすくなった。
- ・アイスブレイクとても参考になった。（学生の参加もよかった）

ご参加・ご協力ありがとうございました。